

¡Hola, amigos!

第073号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は毎週、日本時間の金曜朝03:00時から07:00時の間に実施します。

臨時休刊が事前に分かる場合は、その前週号でお知らせしたいと思います。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年08月12日 カァディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは072号(08月05日)、071号(07月29日)
070号(07月22日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



今週号 No. 073 (2005年・第33週) 08月12日更新

「48年前・商船学校生徒」の巻

こんにちは。日本の夏はやっぱり暑そうですね。

先週の後半、カアディスでも暑い日が続きました。例の熱風、内陸からの東風が吹いたんです。テレビでは32～3度と言う発表でした。ウチの温度計は台所と居間の間のカウンターに取付けていますが、それが今夏第二位の暑さ28度を記録しました。

蒸し暑い日本ではそんなモンでギャーギャーわめくんじゃない、と叱られそうですが普段24～5度のところで27～8度になるとハッキリ暑いと感じます。乾燥した熱風と強烈な日差しとの相乗作用で実際の温度差以上に感じるのでしょうか。

どうやらこの風はアフリカ大陸から吹き出すものが更にアンダルシアの焼けた大地を吹き渡ってくるらしい。蒸し暑いのもイヤですけど、乾燥した風が爽やかだとは限りません。温度湿度で言うと爽やかさの定義はどうなのでしょう。

乾いてさえいれば爽やかというモンでもなさそうです。ともあれカアディスのシーブリーズはまさに爽やかそのものです。

我が家では壁に地図や海図を貼るのは当たり前で、いままで住んだどの家でも画鋸や両面テープで色々と貼り付けていました。画鋸が使えるのは内装材が板の場合だけですから、両面テープを使うことが殆どでした。

両面テープで大型ペラ地図などを壁に貼っていると、地図の重みでパラッとはがれ落ちてしまうことがあります。日本では冬の間そういうことが良くありました。乾燥して紙が縮むうえに両面テープの接着力が弱くなるからですね。

カアディスでは夏になってから、内陸風が吹くと良く地図がはがれます。乾燥です。この乾燥のおかげで各地で山火事が多発しています。旱魃の被害も激しく、これまた

各地で水不足が深刻なようです。地球はヤッパリ病んでいる、としか思えません。幸いカアディスの水は大丈夫のようですが、いずれ野菜をはじめいろいろなものが高くなるのは必至です。困ったものです。

*

先週の土曜、訃報を伝えるメールを受け取りました。

同期の桜の一人が逝ったのです。私たちがスペインに移住する直前に何人かの同期生と夫人たちが私たちの送別会を開いてくれたのですが、彼もその中の一人でした。学生時代の友人は、誰にとっても利害関係の少ない懐かしい貴重な友であることが多いと思います。Rの育った当時の商船学校は、日本では数少ない全寮制の学校で本科三年間は一緒に寮生活、更に一年間、一緒に練習船に乗組むのです。だからお互いの結びつきは一般の高校生・大学生同士以上に密接だったと言えるでしょう。

彼もその同期の一人でした。本来なら彼は一期上の先輩でしたが、一年生の時留年して新入学の我々の同期生となったのです。彼の名誉のためにハッキリさせておく必要がありますが、その学校では留年はごく当たり前にあることで、中にはご丁寧に各学年裏表と言うか各学年連荘でと言うか、卒業までを人の二倍かける勉強ダイスキの人さえ居たんです。大学はいざ知らず普通の高校ではちょっと考えられませんね。

試験の点数が合格点を割れば即落第、情け容赦もなく切り落とされました。勿論、追試という救済措置はありましたが、成績評価は試験の点数一本槍ですから、試験に弱い人間には過酷でした。本番に弱い人っていますよね。

卒業と同時に受ける国家試験の予行演習的に試験の厳しさを知らしめることが目的だったのかも知れません。学校での試験も、当時の国家試験も「何々について知るところを述べよ」式の記述試験が殆どでした。

留年が当たり前であると同時に歩留まりは悪く、途中で消えていった仲間も大勢いました。Rが入学したときの新生は30人。それに留年組の三人が加わって33人でスタートしましたが、本科三年・専攻科二年の計五年が終わってみると、一緒に卒業したのはたった23人でした。三割少なくなっていたんです。コレも普通の高校ではちょっと考えられない事態ですね。

彼は、最初のうち、特に寮生活では、本来は先輩なのに同期生という微妙な立場でし

た。彼の元々の同期生が卒業してからは名実ともに我々の同期生として現在に至ったのです。我々同期生は敬愛の念を込めてTツァンと呼んでいました。

今では校名も学制も変わりましたが、当時その学校は全寮制の完全男子校で、航海科と機関科の二科に別れ、それぞれが一クラス30人、本科は三学年ですから、本科生の定員は180人でした。

専攻科に進むと、第四学年は二班に別れて一年間運輸省航海訓練所の練習船に分乗。第五学年の前半は社船実習といって各船会社の船に単独でアプレンティスとして乗組みました。そして第五学年の後半は再び学校の席上学習に戻って卒業と同時に受験する国家試験に備えたのです。

社船実習を終えて帰ってきた五年生は、アップさんというある種の敬称で呼ばれていましたが、彼らには校外下宿が許されたので専攻科生の寮に残るのはごく少数でした。高等学校のクセに国立であることも、上に述べたようなその内容も、他にはあまり類のない珍しい学校と言えるでしょう。徹底した船乗り養成校でした。

寮の各部屋は15～6人同居の大部屋で、小学校の教室のような室内の両側に、ベッドがずらりと並び、一年生6人、二年生5人、三年生4人という編成が標準的で、そんな部屋が12室ありました。

毎年の入学者は各科30人で計60人。留年者が約一割加わり一年生は60数人になるけれど進級する毎に人数が減って上記のような編成になってしまうんです。

最初の一年は地獄でしたネー。その頃の普通の高校では考えられないほど先輩後輩の序列は厳しかったのです。今でも部活の世界では厳しいでしょうが、部活をやっているのは24時間のうち精々4～5時間、全寮生活では授業に出ている時間以外は全て部活の世界です。年がら年中男子ばかりの合宿生活をしているのと同じです。

今なら暴力事件とされてしまうような鉄拳制裁も日常茶飯事でした。どんな状態だったかはお想像にお任せします。まあ、しかしトータルとしては楽しかった、オヤの監督下を遠く離れ、やりたい放題、随分無茶も悪さもしました。青春のひとつま。

食事は一汁一菜を絵に描いたような具合で、朝は麦飯盛りきり一杯・味噌汁も盛りきり一杯・沢庵二切れ。コレが一年中不変の朝メニューでした。

それを大食堂の長テーブルと木の長椅子に各部屋ごとに7～8人ずつ向き合って座って、週番の三年生のカカレーッの号令で一斉に食べ始めるのです。

カカレーッ、ですからねー。イタダキマースなんてヤワなことは言いません。

♪イヤジャありませんか（軍隊）は、カネの茶碗に竹の箸、仏様でもあるまいに一膳メシとは情けなヤ♪ という歌の通りでした。カッコ内を換えれば当てはまるところはたくさんあったでしょう、塀の向こうとか、商船学校の寮とか・・・。

卒業後はそれぞれの道へ散っていった仲間達ですが、当然大部分の同期生は船に乗り組みました。でも中には家庭の事情で船には乗れなかった仲間もいるし、乗ってもすぐ陸上企業へ転職したり、途中から船会社の陸上勤務でエラクなったり、航海科生でずっと船乗りを続けたのはRを含めて4～5人だったのではないかと思います。

そして彼も、陸上勤務をはさみ、最後はフネで終わった数少ない一人でした。

同期生の一人は、卒業直前、アプレンティスとして乗組んだ船で夜のフロリダ海峡に落水して行方不明になってしまいました。

それが同期生最初の物故者。一緒にスタートした仲間のうち、今、確認しているだけでも航海科の7人が既に向こう岸です。同期生の総数から考えると64～5歳の男性の生存率としてはかなり低いですね。

時代とともに様変わりする職業は多いですが、炭鉱夫と仕立て屋と外航船の船乗りはこの半世紀でもっとも激しく衰退し又は消えてしまった職業と言えるでしょう。

彼もそうですが、Rの知っている先輩船長の中で退職後まもなく突然亡くなった方は少なくありません。家庭を離れ、ストレスの多い不規則な生活の連続だった現役時代が何らかの悪影響を及ぼすのかという気もしないではありません。

船が入港すると乗組員は休息できると思っている方もあるようですネ。そういう結構なフネも世の中には存在するのですが、一般商船は貨物を運搬して運賃を稼がねばならず、休息なんてとんでもない、停泊中が最大の繁忙時なのです。貨物を積まなければならぬし、揚げなくてはならぬ、スムーズに航海するためにエンジンは整備しなくちゃならぬし、燃料をはじめ各種補給もせねば・・・というわけ。

一等航海士の職務は停泊中は船長代理のようなもの。荷役の監督をはじめ官憲など外

来者の応対、果ては物売り・泥棒・密航者に至るまで機関関係のこと以外は殆ど全て一手引き受け、入港から出港まで、宵の口から深夜・明け方・昼寝中も、ちょっと休んでは起こされる、ということの連続でした。

それに引き替え船長は、航海中にナニやかやと起こされることが多く、いずれも連続睡眠を長く取る習慣をもてません。特に外国人クルーだけで運行する外国籍船の船長は停泊中も外国人一等航海士に全てを任せきるわけに行かず、結局、航泊を問わず長時間連続睡眠はないのが当たり前でした。

Rは一等航海士を12年、船長を20年やりましたが、その間、モウ睡眠の習慣はデタラメ。しかも船長になってからの殆どの船は外国人クルーで、最後の数年は日本人は自分だけと言う状態が続きました。彼の船上生活も、クルーが外国人であるケースは少なかったものの概ね似たようなものだった筈です。

40年間、数日で真冬から真夏になったり、毎日が24時間ではなく常に時差の変わる生活でもありました。これらのことが即影響したとは言いませんが、Rの知っている多くの先輩船長が退職後いくばくもなく突然死されたことは事実です。逆に退職後数年を無事経過すると、後は何事もなく長寿をまっとうした方も多いようです。

彼の旅立ちは今平均年齢と比べれば早世ということになるのですが、それは単なる数字の比較で、自分の死が早いと感ずるか否かは、一日を長く感ずるかどうかというようなものでしょう。彼がどう感じていたかは知る由もありませんけれど・・・。

Tツァン、ゆっくりお休みなさい、もう誰も起こしはしないから・・・。***

「バルバコア大作戦」の巻

バルバコアとは barbacoa、英語ではバーベキュー barbeque。BBQなんて言う場合もありますね。大人も子供も文句なしにノレる戸外が暖かいときの楽しみの一つ。私たちには庭がないから、仕方なくベランダで電熱BBQで我慢していますが、ほんとは炭火で強火の遠火、遠赤外線一杯のBBQをしてみたい。

先週の初め頃から、遊歩道の電柱につけられた次のような看板に気がついてました。

フムフム、8月6日、今度の土曜日の夜に浜でバーベキュー大会があるらしい。



各禁止事項や、ゴミは集めて袋にとか、ゴミ入れにとか、いうのはマア解った。

デ、トイレは abiertos toda la noche エエッ、トイレー晩中開けてるってー？

あと、解らないのは TROFEO CARRANZA と OPERACION PLAYA LIMPIA。

CARRANZA カランサというのは最近新装なった近くのサッカー場のことらしい。

そのサッカー場には ESTADIO RAMÓN de CARRANZA というロゴが付いています。ラモン・デ・カランサと言うのはどうやら人の名前らしい。そして TROFEO はトロフィーのこと。要するにこれはカランサ杯ということ。どうやらその夜カランサ・カップと

いうゲームもあるらしい。でも、それとBBQは何の関係が・・・？

もう一つは OPERACION PLAYA LIMPIA オペラシオン・プラヤ・リンピア。私たちの理解では「浜の掃除大作戦」とでも読むしかありません。まあ、大勢でBBQをやれば当然ゴミも大量に出るから、その後の掃除は大作戦を展開しなければならないことは解ります。でも結局BBQとカランサ杯と浜掃除作戦の関連は判然としないままその

日が来ました。

土曜日はいろいろなことがありました。海星仲間の若いカップルが短い滞在を終えて帰る日でした。土曜日の朝は最寄り駅に停まるセビージャ行一番電車は運休です。セビージャ空港の出発便にギリギリ間に合う二番電車に乗る彼らを駅まで送って行きました。帰ってきてから朝食を済ませてメールを見たら同期生の訃報が届いていました。午前中一杯彼のこと、昔のことなど、ボンヤリ物思いにふけるというあまり似合わないことをしていました。

正午近く、そろそろ浜のざわめきが大きくなってきたので覗いてみると、浜はモウ次の写真のようになっています。砂浜のあちこちに区画ができているのが見えますね。

浜の陣取り作戦開始です。砂地に棒をさしてテープを張ったりしているんです。ネットでフェンスを作ってしまった排他的なヤツラもいます。そして普段は禁止されているテントもちらほら。私たちは花見の場所取りの経験はありませんが、日本の春の週末には似たような光景があるんでしょうね。





これは20時頃、日没にはまだ一時間以上ありますが、この日は薄雲があったのでもう日差しはありません、あちこちで気の早いヤツは火を起し始めています。

このちょっと前、エスタディオ（サッカー場）のまん前にあるスーパーへ買い物に行きました。エスタディオの周りはずごい人ばかり、どうやらスタンドにももう大分人が入っている様子です。

そして警備の警官の数のすごいこと、どうやら町中の警察官やパトカーがここに集結しちゃった感じです。今までエスタディオ周辺がこんなごった返しになったのを見たことがありません。今期カアディスのチームが二部リーグ優勝を決めて一部リーグへの切符を手に入れた最終戦は、ヘレスとのアウェイの試合だったので、優勝が掛かった試合だったのに、大画面テレビ観戦だけで、これほどのことはなかったのです。

こりゃ一余程の有名チームが来るのかも……。だけど、どういうイベントなのか、どこのチームとの試合なのか、なんて看板も垂れ幕も一切ありません。日本の野球場なんか数週間先のカードまでデカデカと表示してありますね。とにかく視覚に訴える

ことがないのはいつもの通り。私たちのような言わ猿・聞か猿は蚊帳の外。



やがて日が落ちて、浜の照明がともる頃にはこの通り。これは22時頃の様子です。遊歩道の上にも大勢の人。私たちもベランダで夕食を食べながら、すげー人数だなー浜のどこまでこの調子が続いてんだろう、などと話していました。そのうち、時々、浜全体にワーともウォーともつかぬどよめきが走るのに気がつきました。サッカーの試合をやっているときのスタジアムの歓声を何倍かに増幅したようなボリュームです。浜の音に消されぎみですがスタジアムの方からも聞こえてるみたいです。

そうだ、試合中継をやっているかもと気がついてテレビを入れてみました。やっているカモどころじゃありません、なんとあのバルサ、今期一部リーグ優勝のバルセロナロナウディーニョ、デコ、エトオ、チャビ、ラルソン、そしてビクトル・バルデスなどなど有名選手がひしめくバルサと地元カアディス、今期二部リーグ優勝を決めて一部昇格を手に入れたカアディスとのゲームだったのです。

そうか、コレがあのかの TROFEO CARRANZA だったのか、それならそうと書いときゃいいのに、ツタクー。ドッコにもそんな看板なし。試合はカアディスが頑張って先取点を入れたものの結局は1：3で負け。ハッキリいってやはり貫禄負け、格の違い。ロナウディーニョのフリーキックからのゴール2点はお見事、殆ど芸術的でした。



さて、私たちがテレビ観戦に熱中している間に、浜のほうも大分盛り上がってきた様子。このグループのように陣取りに出遅れた組はほかの陣地にはさまれた狭いところで窮屈にやっています。ネッ向こうの紅白テープと手前の白い細紐に囲まれてるでしょう？ でも、楽しそうにやってますね。

どのコンロを覗いても殆ど野菜っ気なし。テーブルのプラ容器の中も肉ばかり。若いうちやそれでもいいけど、もっとバランスよく食べないトー。そのうち取り返しがつかなくなっても知らないヨー。中年オバさんの七割がたはもうとっくにその線を越えちゃってるけど。真ん中のオバさんもヤバイとこまできてますネ。

まっ、いいか、今夜は楽しまなくちゃー。

ところで、暗くなる寸前、ウチの近く、丁度四つ星ホテルのまん前あたりにタグボートが台船を引いてきて錨をいれてました。こりゃー花火の用意だねと話してました。バルサの勝利でゲームが終わり、大きなカップがバルサに、小さなカップがカァディスに授与されました。ははあ、やっぱりコレがカランサ・カップだったんだ。

試合が終わったら花火かな、と思っていたのにMNになってもまだ始まんない。??



あの台船はなんの関係もなかったかも、私たちの思い込みだったかと半ば諦めかけていた零時半ごろ、やっと始まりました。こうなると我が家は特等席。タマヤー。早速、冷やしてあるヘレスの瓶を引っ張り出してカンパイ。ナニに？ ナニにだっていいんです。とにかくカンパイ。こうして夜は更けてゆき、でも誰も帰る気配なし。ソレニシテモ、とまたムクムクと不審がアタマをもたげます。もう一度最初の二枚の看板までスクロール・アップしてよく見てください。花火のハの字も書いてないでしょう？ それどころか右の看板なんて日付さえも書いてない。月のマークの上に2005としてあるだけ。左の看板には8月6日土曜日と明記してはありますが、右と違うところは2005のBBQとしているところ。右はカランサ杯のBBQという言い方。そしてどちらにもバルサが来るとか、花火をやるとかは何も触れていません。



夕べは異様な騒音の連続でしょっちゅう眼が覚めてろくに眠ってません。夏になってから、週末は大抵、近くのディスコで狂っていた酔っ払いたちが遊歩道で朝まで騒いでいますが、そんな2～3人や5～6人の雑音とは全くレベルの違う騒音です。そろそろ夜が白む7時頃、浜のスピーカーからなにやらアナウンスが流れているのでベランダへ出てみました。暗かった空も海も青みがましてもうすぐ夜明け。アナウンスは良く聞き取れないけれど、どうやら、もうそろそろ終わりにしましょう掃除してゴミをまとめて帰ってね、と言っている、らしい。でも、まだまだこの通りあちこちにかたまっているグループは一向に帰る気配もありません。テントやパラソルをたたんでもいないし、太鼓をたたいたり、呑めや歌えが続いています。ってやんでえー、と言ってるのが聞こえそうです。昨日の午後次々と運び込んだセルベサや紙パックのビーノの量はどのグループもハンパじゃなかったもんね。まだまだ呑みきれてないグループがあったって不思議でも何でもない。自分も夜を徹して延々と呑んだ頃を思い出して、彼らの体力がちょっぴりうらやましくもあります。もう出来ないなあーとしみじみ思います。



そして、8時。いよいよ出るべきもののお出まし。市警ポリシア・ロカール出動。



更に、こちらは怖い治安警察ガルディア・シビルのバイクとバギー。こうなるとモウ帰るしかないね。寝こけているヤツも仲間に揺り起こされて、オイ、かえろカエロ。



ガルディア・シビルはこの通り機動力を総動員して取り締まり。一体なにを？



高速パトロール・ボートと、どこでもすぐ上陸できるようにゴム・ボートも・・・。
これはゴム・ボートとはいえオアソビ用とは全く違い底はプラスチック・ディープ
Vでハイ・スピード対応、後部にはレーダー・ドームも。そして（多分）防振双眼鏡
でなにやらしきりに探しています。酔っ払い駆逐にしてはややオオゲサ。酔っ払いだ
けなら市警のオマワリさんに任せておけば十分ですからね。これはなにかもっと大掛
かりな犯罪捜査か、またはテロの警戒か。一晩中浜の沖にいたのかナ。



やっと、大勢の酔っ払いどもも、オマワリさんに追い立てられるようにして去ってゆきましたが、ひと気のなくなった浜は、まさに杯盤狼籍と言うか、落花狼藉と言うか惨状を呈しています。ひどいですねー。これで浜掃除大作戦の意味も解りました。この広い浜を元の通りキレイにするのは実に大変、それこそ大作戦が必要です。さあ掃除班はこのひどい浜をどうやって掃除するのか、じっくり見物、と思いました。

と、酔っ払いと交代するように浜に登場したのはこんな人達。



この人達は酔っ払いでもない、普通の人への帰り支度でもない、そして勿論、掃除のお手伝いでもない、浜の残留物から使えそうな物を拾って歩いているんですね。二人のオ

バさんの行き(左)と帰り(右)、持っている量が違うし物も変わってます。歩いているうちに目移りして前に拾ったものとどんどん交換したらしい。タクマシー。



左のオジは来年の準備か、たくさん捨ててあるBBQコンロのいいものを物色中。右はどうやら中身をぶちまけてゴミ缶だけ拾っていこうというヤツ。掃除のお手伝いどころか、折角誰かがゴミ缶まで持参で後始末をしていったのに、それをまたぶちまけるなんて。こんなヤツ、ユルセン。公設ゴミ缶は黄色、コレは私物に間違いなし。



この二人はなぜか棒と紐しか興味がないらしい。ヘンなやつら。ナニに使うんだろ。



このほか、ゴミの山から宝物を探そうというヤカラは大勢、しかも狙いは多種多様。発泡スチロールの保冷箱集め専門もいるし、金属探知機完全装備でコインまたは指輪などの金へんを探す奴、などなど。

そして、やっと本職掃除人の登場です。リーダーを含めて一班20人で浜を手分けして掃除してゆきます。基本的には手仕事。オレンジのTシャツと紺の短パンが浜の掃除人のユニフォーム。彼らがずらっと並んだ左右を見比べてください、その違い歴然でしょう？ 仕事とはいえ一つ一つ砂浜からゴミを拾い上げてゆくのは並大抵のことではありませんね。一体この日のBBQはどのくらいの広さで展開していたのか？ 私たちが日常歩き回る範囲は長さ5キロから6キロ、そしてBBQができる乾いた砂浜の幅は少なくとも100メートル。長さ5キロなら50万平米、6キロなら60万平米。ヒューですね。何人の掃除人を用意したのか知りませんがまさに大作戦。コレで看板に書いてあったことは大体理解できましたが、こんなことを毎年やるのかフットボールと何の関係があるのか、毎年バルサが来るのか、または一部リーグの優勝チームと二部リーグの優勝チームの対戦なのか、依然として判らないことだらけ。



正午頃の浜の様子。拾い集めのほうは大分進行しましたが、点々と散らばっている拾い集めたゴミの黒い袋を回収する機動力が不足らしい。濡れた砂浜のほうは普通のトラックでも走れますが、乾いた柔らかい砂浜は特殊タイヤを履いたトラクターのようなものでないと走れません。砂が詰まってしまったシャワー・パンの掃除もこうやって全て手仕事。コレじゃBBQの看板にお掃除大作戦と謳いたくもなりますね。



後で読んだ新聞では、結局この日の掃除は16時までかかって160トン以上のゴミ

を集めたとか。なお、引き続き3日間は特別念入りな掃除をしてガラスの破片などの危険なゴミを一掃するのだそうです。

それにしても、この日一体何人ぐらいのドンちゃん騒ぎだったのか？ 私たちは5万人ぐらい出たんだろうかなんて話していました。カアディス市の人口は約16万とい

いますから5万人なら約三分の一が集まったことになります。すげーナーと。それも気になりますが、BBQとカランサ杯の関係も良く分からないし、こんなことを毎年やってるんだろうか、一部リーグ・二部リーグの優勝チームは関係あるんだろうか。どうにも気になるので近くの夏だけの臨時観光案内所に聞きに行きました。

案内所のオバさんに英西混じりで聞いたところでは次のような話です。

この行事はもう今年で51年毎年やっている。毎年どこかのチームを招待するが、どこをとというのは直前までわからないし、イツというのも年々違う。今年招待したバルサが一部の優勝チーム、カアディスは二部優勝だったことは特に関係ない。

(私たちは迂闊にも気づきませんでした) 今年バルサとセビージャとポルトガルのブラーガを招待して8月4・5・6日にゲームをして6日が最終戦だった。(だから看板にFINAL TROFEO となっていたんだ) 最終戦の日にBBQ大会をする、それが必ずしも8月の第一土曜とは限らないが大体その頃になるのが普通。コレは毎年恒例の行事でカアディス市民だけでなく遠くからやってくる人も大勢いる。

大体こんな内容の話でした。なーんだ、知らなかったのは私たちだけだったんだ。ところで昨夜は一体何人ぐらいの人が出たんでしょうか？ と聞くと、オバさんはそばにあった新聞を取り上げて、ほら、コレよ。そこには200,000という数字が並んでいました。ウーン20万人かー、カアディス市の人口以上じゃないか。

ところが、後で別の新聞を見ると、それには30万人と書いてありました。こうなると新聞発表も全くあてになんないですね。2人と3人なら一人しか違わないけど20万人と30万人はあまりに違いすぎるんじゃないのー？ ***
